

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス オレンジキッズ引山		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 11人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公園が近く、遊びの中で興味を引き出し多角的に体験させることができている。これにより、体幹を自分で認知するだけでなく、危険認識や遊び方のルールを体験として学ぶことができている。	本人のレベルとしてやろうとしている行動が無理かどうかの判断、どのように体を動かせばできるのかの判断など、遊びの中で具体的な問いかけを行い、体幹の認知だけでなく自分で考え判断する力の育成に力を入れている。	個としての活動が多く、集団活動とならない傾向が強い。ゲームなど集団遊びの要素を取り入れ、他者との関わり方やルール、マナーの認識・理解へつなげる支援に力を入れていく必要がある。
2	個別や小集団を対象とした認知作業、認知機能を向上する療育を取り入れ、ひとりひとりの課題を深く掘り下げた療育プログラムを組み実践している。	一人一人の利用者に合わせたプリントや課題を準備するだけでなく、実践時に何を目的とするかの情報共有をスタッフ間で行うことで目指すべき課題を明瞭化している。これにより「何ができるようになったか」「これから何をできるようにすべきか」の明瞭化にもつなげている。	療育プログラム自体がまだ始まったばかりのところでもあり、模索しながらの場面も多い。まずは基本となる情報共有の徹底と、課題のさらなる明瞭化を行っていく必要がある。また、いかに楽しく取り組んでもらえるかを工夫していく余地は大いにある段階だ。
3	定期的なブログ公開や配布物の存在や送迎時の親御さんとの会話が、活動の内容を紹介する場となっているだけでなく、活動の意義の理解を得る機会となっている。	情報を定期的に発信するだけでなく、送迎時に実際に親御さんと会話をすることで、利用者のより詳しい様子などをお伝えできる場として活用している。	現状は情報の提供で留まっている。そのため今後は当施設にどのようなことを望まれているか聞き取りも積極的にを行い、そこで得たアイデアを実際の支援に落とし込めるよう心がけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子ともたちとの交流機会がほとんど行われていない。	公園で地域の子供たちと遊具や場を共有することがあっても、遊びそのものを共有できる状況になっていない。	顔なじみになりつつある地域の子供はできてきているため、スタッフが中心となり、一緒に遊ぶきっかけを作り、継続的な交流につなげていく。同時に保護者の方との交流を図り、利用者の認知と特性への理解と安心感につなげ、相互的に交流しやすい環境整備をしていく必要がある。
2	家族への研修や有益な情報提供の機会が不足している。	そもそも各家族がどのような研修を望んでいるのか、ニーズの確認ができていない。またメールや書面による定期的な情報提供システムが構築できていない。	今後、研修の機会や研修情報の提供、家族間の交流の場の提供などを検討していく。
3	職員全員での支援の方向性が十分に統一されていない。	一人一人の利用者の特性の把握や背景情報の共有が不十分なため、将来を見据えた支援・療育ではなく、その場で見えている「困っていること」への対応になりがちである。	十分な情報共有をしたうえで、半年後、1年後にどうなっているか、そのために今のような支援を必要としているかの方向性を統一していく。また関わり方に必要な知識の全体共有を働きかけていく。